

平成 29 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

教育理念	人権教育、支援教育の推進、キャリア教育、聴覚障がい教育の融合を図り、我が国の平和と繁栄を支える人材を育成する。
教育目標	聴覚に障がいのある生徒の後期中等教育の充実をめざし、一人ひとりの生徒の自己実現に向けた教育を実践する。
学校の使命	青年期の聴覚障がいのある生徒の持てる力を最大限に伸ばし、派生する課題にワンストップで対応する。
校訓	「自立 規範 明朗」
学校スローガン	「自ら学び自ら変わること社会に貢献する」

重点目標

- 1 生徒一人ひとりの実態に応じた進路指導・学力向上の推進
- 2 生徒、保護者の思いに寄り添う学校づくり
- 3 ユニバーサルな教育環境の実現とより質の高い教育の提供

⇔

めざす生徒像

- 生き生きとした活力のある生徒
- チャレンジ精神にあふれた生徒
- 互いを助け、ともに生きる生徒

めざす学校像

- 変化を怖れず挑戦する学校
- 地域にグローバルに開かれた信頼される学校
- みんなが安全で安心できる学校

安定した心の形成（自己形成）を土台に ・ 地域とつながる ・ グローバルにつながる ・ 安全安心で
情報保障の充実した学習環境での ・ 基礎学力の定着、発展による ・ 進学、就職の実現

2 中期的目標

「だいせんアクションプラン」の着実な実施

- (1) 聴覚障がいのある生徒一人ひとりの状況に応じた学力向上、進路指導の推進
 - 社会的自立に向けた生徒の意識改革と学校風土の維持発展（自律・自立心を持ち、実行力・実践力のある生徒、自己管理のできる生徒）
 - ・ 現場（体験）実習、就職面接会等を経験した先輩を「モデル」としたキャリア教育の継続発展を図る。
 - ・ キャリア教育と結びついた生徒指導の理念の徹底、社会を意識した一層の学校風土の安定を図る。
 - ・ 生徒自治会活動等とおして、主体的な活動、自己管理のできる生徒の育成をめざす。
 - ・ クラブ活動等を通じた高校等との交流の推進、実績を発信し、近畿大会・全国大会等での優勝をめざす。
 - 情報保障の充実、学力の定着・発展と国語力(特に書いて表現する力)の伸長
 - ・ 学校クラウドの推進、タブレット型PC等を活用した自学自習・自己管理・自己表現力の向上を図る。
 - ・ 各種資格検定等の受検を支援し、全生徒の資格取得をめざす。
 - グローバル人材の育成、海外での学習も視野に入れた教育の充実
 - ・ 国内外において、互いを認め合い、尊重できる生徒を育てる。
 - ・ 全国の先駆けとなる ASL(アメリカ手話) の授業を継続し、国際コースの充実を図る。
 - ・ インターネットテレビ電話等の ICT 機器を活用し、世界とつながる国際的視野をもつ生徒の育成を図る。
 - 進路・就職指導のネットワークの強化とキャリア教育の充実発信
 - ・ 現場実習や見学会、高大連携等での校内外の活動やアフターフォロー体制の整備など、キャリア教育の一層の充実を図る。
 - ・ これまでのキャリア教育の実践の中から今後の推進に役立つ事例をまとめる。
「キャリアプランニング・マトリックス」を参考に、「高等部段階において育てたい力」について考察し、聴覚障がいのある生徒の「キャリア発達段階・内容表」を作成、発信する。
- (2) 生徒、保護者の思いに寄り添う学校づくり
 - みんなが安全で安心できる学校教育活動の推進
 - ・ 緊急連絡体制や地震対応、不審者対応の充実を図る。
 - ・ 「BCP(府立学校版業務継続計画)」や「お願い手帳」等を活用した主体的な緊急時の避難指導の充実、また生徒自治会活動で、緊急時の対応や支援者としての役割についての取り組みを継続的に行う。
 - ・ 地域やPTAと連携し、聴覚障がい者のための防災マニュアル、防災グッズの備蓄の充実、避難所シミュレーション等に取り組む。
 - ・ 地域の清掃活動や校内美化の活動にキャリア教育の視点から取り組む。
 - ・ 思春期にある生徒の心の安定を図る教育を進める。(生徒指導、人権教育、性教育、多文化共生教育等)
 - 保護者・地域から信頼され、一人ひとりの教職員がやりがいを持つ学校づくり
 - ・ 「個別の教育支援計画」の作成、活用等を通じ、保護者との共感や連帯感を醸成する。
 - ・ 進学、就職等、一人ひとりの生徒がめざす進路の実現に向けた、丁寧で着実な指導支援を行う。
 - 地域との連携、発信力の向上、聴覚障がいのある生徒の青年期の課題対応等の支援ネットワークづくり
 - ・ 地域に根ざした学校づくりを進め、青年期の課題啓発を図る。
 - ・ 近畿や府立の聴覚支援学校、府内の高等学校のコーディネーター等との連携をさらに深め相互交流を図る。
 - ・ 堺市から福祉避難所の指定(25年度～)を受けていることをふまえ、地域の防災等の連携ネットワークづくりを進める。
- (3) ユニバーサルな教育環境の実現とより質の高い教育の提供
 - 学校組織としての「聴覚」「高等」「支援」学校の専門性の向上(授業改善、人材育成、地域支援の充実)
 - ・ 個別の教育支援計画の活用や聴覚障がい、あわせ有する発達障がい等の理解啓発を進める。
 - ・ 「聴覚」「高等」「支援」学校としての実践、発信を進める。
 - ICT機器等(タブレット型PC・文字情報システム・電子黒板等)の活用を含む教職員の資質、専門性の向上(授業力向上、教材開発等)
 - ・ 教職員一人ひとりの授業づくりの工夫を図るとともに、タブレット型PC等のICT機器を活用した実践研究の発信を継続する。
 - ・ 研究機関等と連携し、聴覚障がいのある生徒の情報保障、学力保障のモデルとして全国に発信し、聴覚障がいの理解啓発の一助とする。
 - 「高大連携」等の充実
 - ・ 国内外の聴覚支援学校や大学、企業等との連携を図り、時代に応じた教育内容を充実する。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 29 年 12 月実施分]	学校協議会からの意見
<p>□ 平成 29 年 12 月に、生徒及び保護者、教職員を対象に実施した。回収率は、生徒 98.6%、保護者 94.3%、教職員 100%であった。</p> <p>□ 生徒</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度「授業が分かりやすく、興味深い授業が多い」59%であった。学校協議会委員からご意見をいただき、今年度は「授業の内容が分かりやすい」と「興味深い授業が多い」の2項目に分けて実施した。結果は、「授業の内容が分かりやすい」83%「興味深い授業が多い」63%であった。 ・昨年度「図書館をよく利用している」29%であった。今年度は45%となった。 ・昨年度「生徒自治会活動に関心を持って参加している」41%であった。今年度は59%となった。 ・「災害が起こった場合、具体的な行動が知らされている」昨年度69%から89%になった。今年度は93%であった。 <p>□ 保護者</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度と同様に、どの項目もほぼ90%前後であった。「この学校の授業参観や学校行事に参加したことがある」79%（本科：87%専攻科：53%）であった。 <p>□ 教職員</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度、生徒指導に関して、生徒81%、保護者92%、教職員59%であった。今年度は、生徒80%、保護者86%、教職員72%となった。 ・昨年度、部活動に関して、生徒64%、保護者74%、教職員89%であった。今年度は、生徒73%、保護者85%、教職員91%となった。 	<p>第1回 平成 29 年 6 月 26 日（月）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インターネット電話を用いた国際交流は意義深い取り組みなので、多くの生徒が参加できるとよい。 ・「人権HR」の取り組みはとても素晴らしいと感じた ・自己と違う障がいについて、互いが理解しともに支え合うことは、本当に大事なことだ。 ・大規模災害が発生した場合は、同窓会としてもできる限りサポートしたい。 ・普段から地域との交流を大切にしていくことで、災害時においても地域の人と良好な関係の中で、互いに助け合うことができると思う。 ・ICT展で発表できることは、すごいことだと思う。ICTの活用については、今後も継続して充実させてほしい。 <p>第2回 平成 29 年 11 月 13 日（月）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICTの活用については、企業からみると費用対効果も気になる。生徒の主体的な学習意欲を育てるため、社会でのコミュニケーション手段としての活用のためにも今後も取り組みを進めて欲しい。 ・防災の取り組みについて、会社でも「お願い手帳」があり、社員には必ず身に付けるようにいっている。学校でも生徒がいつも携帯する仕組みができればいいと思う。 ・災害発生時に、自助・共助・公助がいわれるが、まずは自分自身の命を守ることが大切である。何よりも自助が優先される。そのような指導も必要である。 ・今後もだいせんからの発信を続け、地域とともに進んでほしい。 <p>第3回 平成 30 年 2 月 26 日（月）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分自身のことを文章で表現できる力が大切だと思う。生徒の情報発信能力の向上が必要である。 ・今日の話にあった「日本語力」「体験」「人権」の3つは非常に大切だと思う。障がいのある方が、自分の障がいの状況を他者にしっかり説明できる、何をサポートしてほしいのかきちんと伝えることができる、そうした力を身に付けられるよう、今後も力を入れて取り組んで欲しい。 ・防災教育は、実際に動いて体で覚えることが大切だと思う。「体験」や「実験的なもの」を取り入れるとよいと思う。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
聴覚障がいのある生徒一人ひとりの状況に応じた学力向上・進路指導の推進	<p>(1) 社会的自立に向けた生徒の意識改革と学校風土の維持発展</p> <p>ア 社会とつながる生徒指導・キャリア教育の推進</p>	<p>(1)</p> <p>ア・社会の実情を知る体験、取り組みの充実</p> <p>・先輩をモデルとしたキャリア教育の継続発展</p>	<p>(1)</p> <p>ア・学校教育自己診断「命の大切さや社会のルールを守る態度を育てる」「相談にのっていいいに対応」生徒・保護者満足度 70%以上</p> <p>・3人以上の先輩を招き、社会に出てからの体験を聞く機会を公開講座として実施</p>	<p>(1)</p> <p>ア・学校教育自己診断「命の大切さや社会のルールを守る態度を育てる」生徒満足度 90%、保護者満足度 92%「相談にのっていいいに対応」生徒満足度 83%、保護者満足度 98% (◎)</p> <p>・5月に「先輩の体験を聞く会」を実施した。本校から進学した大学生、物流会社に就職した先輩、事務職についた先輩、本校入学前に苦い体験をしたが、今は事務職の副主任として活躍している先輩、4人の先輩から体験を聞いた。(就職者3人は全員専攻科卒業生である。)在校生はメモをとりながら、真剣に話を聞いていた。本校の保護者、卒業生、外部の中学生、高校生等81人の参加があった。(◎)</p>
	イ 生徒支援体制の充実	イ・生徒支援体制の見直し、効果的運用	イ・学校教育自己診断「生徒指導は適切である」生徒・保護者・教員ともに満足度 70%以上	イ・学校教育自己診断「生徒指導は適切である」生徒満足度 80%、保護者満足度 86%、教員満足度 72% 教員の満足度は、昨年度 59%→72%となった。生徒支援体制の組織改編の一定の成果と捉えている。(◎)
	ウ 生徒自治会活動の推進	ウ・生徒自治会の活動推進を図る日常的な学校生活における各係活動の取組みの発信	ウ・朝のあいさつ運動の参加者 100人以上	ウ・朝のあいさつ運動の参加者 110人 (○)
	エ タブレット型PC等を活用した授業実践や学校クラウド等を活用した反転学習、自学自習の推進	エ・学校クラウド等を活用した反転学習による自学自習の取組みの推進	エ・学校教育自己診断「家庭での学習に取り組む」生徒満足度 55%以上	エ・学校教育自己診断「家庭での学習に取り組む」生徒満足度 58% (○)
オ 各種資格の取得推進	オ・各種資格の受検推進と支援	オ・学校教育自己診断「資格の取得にチャレンジしている」生徒・保護者満足度 65%以上	オ・学校教育自己診断「資格の取得にチャレンジしている」生徒満足度 71%・保護者満足度 90% (○)	

府立だいせん聴覚高等支援学校

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">聴覚障がいのある生徒一人ひとりの状況に応じた学力向上・進路指導の推進</p>	<p>カ あらゆる機会を活用した国語力の向上</p> <p>(3) グローバル人材の育成、海外での学習も視野に入れた教育の充実</p> <p>キ 海外の聾学校等との交流</p> <p>ク ASL (アメリカ手話) 授業の実施</p> <p>(4) 進路・就職指導ネットワークの強化とキャリア教育の充実発信</p> <p>ケ 丁寧な進路指導と納得できる進路の実現</p>	<p>カ・全ての教科での国語力の伸長</p> <ul style="list-style-type: none"> ・メモを書く等の習慣化の工夫 ・図書室の活用充実 <p>(3)</p> <p>キ・インターネットテレビ電話等の ICT 機器を活用した海外の聾学校等との交流</p> <p>ク・ASL (アメリカ手話) 授業の継続実施</p> <p>(4)</p> <p>ケ・進学就職等の関係機関とのネットワークの窓口と学校組織との関係の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまでのキャリア教育の実践の視覚化 	<p>カ・講習会、実習等ではメモを取り、主旨や感想をまとめる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・蔵書の充実、ディスプレイの工夫、イベントの開催等の実施 <p>(3)</p> <p>キ・インターネットテレビ電話等を使った国際交流の実施</p> <p>ク・ASL (アメリカ手話) の授業を年間 10 回以上実施</p> <p>(4)</p> <p>ケ・就職希望者と大学進学希望者の進路実現 100%</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校教育自己診断「進路に関する必要な情報を十分提供」「希望する進路について丁寧に指導」生徒・保護者満足度 70%以上 学校教育自己診断「進路指導は適切」保護者満足度 90%以上 ・キャリア教育の実践から今後の推進に役立つ事例をまとめ、聴覚障がいのある生徒の「キャリア発達段階・内容表」(試案)を作成する。 	<p>カ・講習会、実習等では要点をメモし、終了後に学んだことや感想を書くよう指導している。</p> <p>「先輩の体験を聞く会」で話した先輩が「みんなメモを取っているのすごいと思う」「自分たちはあまりメモを取るという習慣がなかった」と話していた。これからも「読み直しても分かりやすいメモ」が取れるよう指導していく。(○)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図書室を本の貸借や読書の場だけでなく、放課後の大学進学や苦手科目克服に向けての補習を行う場としても活用した。さらに今年度は定期的に映画上映会を開催した。また、生徒の興味・関心を惹く多様な本を揃え、手に取りやすいように POP を作成したり、図書だよりや図書室前のブラックボードでお薦めの本を紹介したりするなどの工夫を行った。学校教育自己診断「図書室をよく利用する」生徒満足度 45% (昨年度 29%) 今後さらに本棚の整理やディスプレイの工夫を進め、より多くの生徒が図書室を利用する環境を整える。(◎) <p>(3)</p> <p>キ・4/25、10/31 に台湾国立台南大学附属啓聡学校の生徒と、インターネットテレビ電話を活用した交流を実施した。(○)</p> <p>ク・アメリカ手話講座を6月から月1回放課後に開講し、3月までに計10回実施した。1/23・2/8 は、多文化共生プロジェクト国際交流班とのコラボ授業を行った。(○)</p> <p>(4)</p> <p>ケ・専攻科生は全員、早い時期に希望する企業からの内定を受けた。本科生についても一人ひとりに寄り添い、丁寧に指導を重ね進路変更も含め生徒・保護者が納得できる進路指導を実施した。(○)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校教育自己診断「進路に関する必要な情報を十分提供」生徒満足度 83%、保護者満足度 80% 「希望する進路について丁寧に指導」生徒満足度 86%、保護者満足度 97% 学校教育自己診断「進路指導は適切」保護者満足度 95% (◎) ・本校の長年にわたる企業等との関わりの中で、お叱りや指摘などを受けた 76 事例を「当該者の気持ち」「教員からの説明」「育てたい力」から考察した。事例を障がい受容 (啓発) 能力を加えた 5 領域に分類し、「(聴覚障がい版) キャリアプランニングマトリックス (試案)」を作成した。「理論」からでなく、実際の「事例」に基づき作成した「聴覚障がい者」の「就労までに身に付けておきたい力」のマトリックスであることの意義は大変大きいと考える。作成にあたっては、筑波技術大学教授を招き指導助言をいただいた。この取り組みについては、2月の近畿地区聾学校PTA会で報告する。合わせて「就労までに身に付けておきたい力」を図式化し、聴覚障がい生徒に分かりやすい教材化も試みた。さらに取り組みを進め、生徒向けキャリア教育や教員の研修に役立てるとともに、全国に発信したい。(◎)
---	--	--	--	--

府立だいせん聴覚高等支援学校

生徒・保護者の思いを育み、学校へ	<p>(1) みんなが安全で安心できる学校教育活動の推進</p> <p>ア 防災等の対応の充実</p> <p>イ 思春期にある生徒の心の安定を図る教育の推進</p> <p>ウ 地域とつながる教育の推進</p> <p>(2) 保護者・地域から信頼され、一人ひとりの教職員がやりがいを持つ学校づくり</p> <p>エ 個別の教育支援計画、個別指導計画の活用を検討</p> <p>オ センターの機能の充実、聴覚障がいのある生徒の教育相談等の支援機能の強化</p>	<p>(1)</p> <p>ア・「BCP(府立学校版業務継続計画)」の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域やPTAと連携した聴覚障がい者のための防災対応の充実 ・防災教育の充実 <p>イ・生徒指導の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・性に関する指導の充実 ・人権教育の推進 ・多文化共生教育の推進 ・言語としての手話についての理解を深める 	<p>(1)</p> <p>ア・学校教育自己診断「緊急時に関する対応の指導」生徒満足度70%以上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「BCP(府立学校版業務継続計画)」の改訂 <p>・地域やPTAと連携した防災研修等の実施</p> <p>・生徒の防災意識向上を図るための学習を年2回以上実施</p> <p>イ・不登校支援、ケース会議の持ち方等、生徒指導体制の再整備を行う</p> <p>・生徒理解、生徒指導に関する研修の実施</p> <p>・継続的な性に関する指導の実施 卒業までに理解しておくべき性に関する知識をまとめる</p> <p>・人権教育推進委員会において、本校における人権教育の内容を整理する各クラスで人権HRを年3回実施</p>	<p>(1)</p> <p>ア・学校教育自己診断「緊急時に関する対応の指導」生徒満足度93%以上(◎)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度、聴覚障がいのある教員を主担者とした防災委員会を立ち上げた。聴覚障がい者の視点から本校の防災等への対応を検討した。堺市危機管理室と連携した大規模災害時初期対応マニュアルの作成や「BCP(府立学校版業務継続計画)」の改訂、危険箇所のピックアップ、在校生徒チェックリスト、引き継ぎカードの検討、災害備蓄品の購入等を行った。(○) ・12/8に宮城県立聴覚支援学校から聴覚障がいのある教員を招き、「東日本大震災から学ぶ」をテーマに「公開防災研修」を実施した。近畿の豊学校、PTA、堺市危機管理室等からの参加があった。講師には本校を巡回し、危険箇所についての指摘もいただいた。今後もさらに地域等と連携し、防災への対応に取り組みたい。(◎) ・9/5「大阪880万人訓練」に合わせて、避難訓練→防災教育(第1回)→非常食給食を実施した。防災教育は、災害(地震・津波)・避難についての基礎知識、だいせん版「お願い手帳」の具体的な場面を想定した使用実習、「Web171」の体験実習、電子版「だいせんお願い手帳」の作成とインストールの推奨、だいせん版防災ゲーム「OSAKA 防災タイムアタック」、発展課題「想定される危険性と対処法」(グループ協議)などを2回に分けて行った。(◎) イ・週1回生徒支援会議を設定した。また学年や学科だけでは解消しがたい事案については、全校的な組織である校内支援委員会検討し、必要に応じて外部の協力も得られる体制を整えた。生徒を「全校で見守る」という教員の意識が向上した。(○) ・大学教授や聴覚支援学校教員を招き、教員研修を行った。一部は公開研修とし、地域の中学校、高等学校の教員との連携を深め、学びを共有した。[主な研修テーマ]「発達障がいについて-保護者支援も含めた支援法-」「きこえのしくみと聴覚障がい生徒支援」「聴覚支援学校における授業づくりについて」「聴覚障がい生徒の就労に関する事例に基づくキャリアプランニングマトリックスの作成について」「キャリア教育推進のための情報保障のあり方について」「生徒への発音に関するアセスメントについて」「生徒の聴覚活用に関するアセスメントについて」(○) ・健康指導部が中心となり、各学年の「性に関する指導」の取り組みと各学年で必要な指導内容を表にまとめた。生徒指導部やキャリア教育部等の関係部署からの意見もふまえ、本校の現状に即した「性に関する指導計画」を作成した。次年度からこの計画に基づいて各学年で指導を行い、さらに内容を精査する。(◎) ・5/16 教員研修において、昨年度の「人権HR」の取り組みを各学年から報告した。取り組みの一部は、10/20「全日本豊教育研究大会」で発表した。(○) ・本科・専攻科の各学年で年3回「人権HR」を実施した。テーマ・内容は実態に応じて各学年で設定した。「デートDV」「自分の障がい」「相手の気持ち」「障がい者手帳・福祉制度」「聴覚以外の障がい理解」などで、動画や講義、テキスト等を取り入れて実施した。
------------------	--	---	---	--

府立だいせん聴覚高等支援学校

生徒 保護者の思いを育み、生きる力を身につける			<p>・多文化共生に関する学びの機会を年2回以上もつ</p>	<p>今年度の人権HRの実施内容については、3月下旬に全校報告会を行い、次年度の取り組みにつなげていく。また、各学年で人権作文にも取り組んだ。この取り組みは、生徒が大学進学や就職の時期を迎え社会に出ていくにあたり、これまでの自分自身を振り返り、客観的に見つめ直し、前を向いて生きていく契機ともなっている。胸の中の思い（聴覚障がい故に辛い思いをしたこと、友だちや家族との関係など）を繰り返し教員と話をしながら整理し、文章に仕上げていく過程の大切さやその中で生徒の成長をあらためて感じる。生徒の人権作文は、大阪経済大学「17歳からのメッセージ」（応募総数29,564通）でグランプリと奨励賞、堺市「わたしからの人権メッセージ」（応募総数2,347点）で、特選2名と入選、大阪府人権作文コンクール（5,185作品）で最優秀と優秀2名に選ばれた。（◎）学校教育自己診断「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある」生徒満足度90%</p> <p>・多文化共生教育に関するプロジェクトを立ち上げ、国際交流・高大連携・地域連携に取り組んだ。</p> <p>国際交流：4/25、10/31に台湾国立台南大学附属啓聡学校（聴覚支援学校）の生徒と、インターネットテレビ電話を活用した交流を実施した。12月には本校生徒からエアメールを送った。昨年3月に本校教員2名が同校を訪問し依頼した交流が実現した。来年度、5/17に啓聡学校の生徒が教育旅行で来日し、本校を訪問する予定である。今年度の交流を活かした直接交流を計画する。</p> <p>インドをテーマとしたコラボ授業（地理：気候・風土、国語：日本文化との比較を小論文にまとめる、インドの時事を新聞にまとめる、家庭：カレーの調理実習、情報：インド旅行の企画等）を行った。</p> <p>アメリカ手話講座を6月から放課後に開講し、3月まで計10回行った。1/23・2/8は、インドの方2名をお迎えし、インドの暮らしや文化に関する話を聞いたり、ヨガの体験などを実施した。アメリカ手話講師の方に、アメリカ手話で通訳をしていただいた。（◎）</p> <p>高大連携：3大学を訪問しクラブ活動を体験した。（マジックサークル、茶道部、卓球部）また、大学生が来校し本校生徒の放課後の学習サポートを行った。（○）</p> <p>地域連携：生徒が「手話歌チーム」を結成し、手話エンターテイメント発信団oioiに9月～11月にかけて週1回指導を受けながら、10/22高齢者ケアセンターの文化祭や11/11「共に生きる障がい者展」でステージ発表をした。あわせて12/17関西エリアの学生手話パフォーマンス発表会にゲスト出演したり、12/19本校で実施している地域の方対象の「手話講習会」でも手話歌を披露した。また、11/26堺市から依頼があり「手話と障害者コミュニケーションのシンポジウム」で、別のチームが大学教授の指導を受け、関西大学身体表現ゼミと創作コラボダンスと手話歌を披露した。3/9堺地域で働く方を招いて、職業体験セミナー（仕事に関する講話と体験）を実施した。（美容師、ネイリスト、和菓子職人）（◎）</p>
-------------------------	--	--	--------------------------------	---

府立だいせん聴覚高等支援学校

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">生徒 保護者の思いを育み、添った学校づくり</p>		<p>ウ・年2回の「仁徳陵清掃ボランティア」に学校として参加する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の方に来校していただける機会をもつ <p>(2)</p> <p>エ・個別の教育支援計画、個別指導計画の改訂</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者懇談等での各担任からの各計画の意義の説明、理解の促進 <p>オ・地域連携支援室（D-センター）の活動の充実、広報活動の継続、学校紹介活動とその発信</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高校のコーディネーター等との関係構築を深め、連携した取組みを実施 ・聴覚支援学校との関係強化及び継続した高校中学校等への専攻科のある本校の特徴やセンター的機能についての周知 ・学校の情報発信力を高める 	<ul style="list-style-type: none"> ・外部の講師を招いて、教員が手話を学ぶ機会を年10回以上もつ <p>ウ・学校教育自己診断「地域連携の取り組みは評価できる」保護者満足度80%以上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒、教員、保護者、同総会等参加者40人以上 <ul style="list-style-type: none"> ・手話講座(初級・中級)の実施 <p>(2)</p> <p>エ・学校教育自己診断「懇談時に個別の教育支援計画についての説明」「個別の教育支援計画の内容が教育指導に反映されている」保護者満足度90%以上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校教育自己診断「希望する進路について丁寧に指導」「進路指導は適切である」保護者満足度80%以上 <p>オ・センター的機能をより充実させるため、教育支援部、聴能、キャリア教育部等との連携強化等、地域連携支援室の体制整備を行う</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホームページの充実 校長ブログの新設 <ul style="list-style-type: none"> ・学校紹介、学校PRグッズの充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・ろうあ会館からベテランの聴覚がいのある講師を派遣していただき、計22回教員向け手話講座を開催した。単語から文章表現まで丁寧に学ぶことができた。普段使う手話単語を再確認したり、手話を生徒により分かりやすく表現する工夫なども考えるようになった。(○) <p>ウ・学校教育自己診断「地域連携の取り組みは評価できる」保護者満足度89%(◎)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・11/12第1回「仁徳陵清掃ボランティア」生徒、教員、保護者、同総会等参加者54人。3/11第2回「仁徳陵清掃ボランティア」に参加。参加者は計75人になった。(◎) ・地域の方を対象に手話講座(初級・中級)を実施した。今年度は大阪府、堺市に「手話言語条例」が制定された影響か、初級18人、中級22人の受講があった。生徒が企画したゲームなどを行う交流会や手話歌チームの発表なども講座の中に取り入れた。聴覚支援学校で実施する手話講座がより魅力的なものになるよう、これからも工夫したい。(○) <p>(2)</p> <p>エ・学校教育自己診断「懇談時に個別の教育支援計画についての説明」保護者満足度95%「個別の教育支援計画の内容が教育指導に反映されている」保護者満足度95%(◎)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校教育自己診断「希望する進路について丁寧に指導」保護者満足度97%「進路指導は適切である」保護者満足度95%(◎) <p>オ・今年度から新たに、支援教育コーディネーターの他に、教育支援部、聴能担当、自立活動担当、キャリア教育部等のメンバーを含めて、地域連携支援室(D-center)の活動を行った。中学校や高等学校からの教育相談等の対応に加えて、「発達障がい」や「聴覚障がい者のきこえ」についての公開講座の実施、生徒支援会議や校内支援委員会の調整、運営等を担った。これからも、全国に3校のみの「聴覚高等支援学校」として、「聴覚障がい教育における後期中等教育の基幹校」の役割を果たせるよう、専門性をふまえた取組みを進めたい。(○)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度より、本校HPに「校長ブログ」を新設した。本校の特徴がよく現れている活動などを取り上げ、月2～3回の掲載を続けた。最初の見出しに写真を入れ、見る人の興味を引くよう工夫した。(○) ・昨年度の「学校紹介クリアファイル」に加えて、今年度の校長マネジメント経費を活用して、校名入りシャープペンシル(桃・橙・青)を作成した。合わせて工業テクノロジー科生徒が、旋盤技術を使った「ペン立て」を制作し、情報コミュニケーション科生徒が「だいせん&もずやんコラボ缶バッチ」をデザイン、ライフサポート科の生徒が布製の「葉っぱのしおり」を作った。学校見学者や企業からの来客等へのノベルティとして活用している。学校としての「おもてなし」の気持ちを込めた「学校紹介」グッズとして、喜ばれている。(○)

府立だいせん聴覚高等支援学校

ユニバーサルな教育環境の実現とより質の高い教育の提供	<p>(1) ICT機器等(タブレット型PC・文字情報システム・電子黒板等)の活用を含む教職員の資質、専門性の向上(授業力向上、教材開発等)</p> <p>ア ICT機器等を活用した授業実践の継続発信</p>	<p>(1)</p> <p>ア・プロジェクトチームを中心に、聴覚支援学校における情報保障のあり方に関する研究を行う</p> <p>・ICT活用事例の集約と発信</p>	<p>(1)</p> <p>ア・これまでの取り組みに関する検証(アンケートの実施)</p> <p>・「生徒」「教職員」にとっての「学校としての」情報保障について検討し、環境を整えていく</p> <p>・ICT活用事例集のHPへの掲載</p>	<p>(1)</p> <p>ア・昨年度2月に実施した情報保障研修会アンケートの結果等をふまえ、本校の情報保障のあり方について、プロジェクトチームを中心に検討を行った。「教職員」への情報保障については、学校行事や会議などで「文字通訳」のために使用するパソコン等の設定をしやすいようにするため、常設できるようにした。(○)</p> <p>「生徒」への情報保障の検討に関しては、プロジェクトメンバーである情報部、情報コミュニケーション科、自立活動(聴能)、研究部、教育支援部、キャリア教育部から質問事項をまとめ、筑波技術大学教授を招いて意見交換の機会を持った。生徒への情報保障については、「国語力・言語力」「体験」「自分で考える力」を育てることがまず必要だご教示いただいた。地道な努力の積み重ねが必要だが、次年度も専門性を持った大学教授等の指導助言をいただきながら、ICT機器を効果的に活用した聴覚障がい生徒の情報保障に取り組みたい。(○)</p> <p>・これまでの実践をまとめた「ICT活用事例集」(49事例)をHPに掲載した。国語・数学・社会・理科・英語・体育・音楽・工業科・情報科・ライフ科の教科・学科別や使用機器別にクリックすれば、簡単に検索ができるよう工夫されている。(○)</p>
	<p>イ 「聴覚」「高等」「支援」学校としての授業改善</p> <p>ウ 「高大連携」等の充実</p>	<p>イ・学校教育自己診断や研究授業、公開授業週間での参観アンケートの結果等からの各教員、教科会等による授業課題の検討・改善</p> <p>ウ・国内外の高校や大学等との交流</p>	<p>イ・授業改善に関する研修の実施</p> <p>・公開授業週間の各期の参観教員数のべ50名以上、参観授業アンケート30名以上</p> <p>ウ・各学科や学年、部活動等で、10回以上実施</p>	<p>イ・大阪教育大学教授を招いて「聴覚支援学校における授業づくりについて」の教員研修を実施した。また、上記の筑波技術大学教授からも発問の仕方等「生徒に考えさせる授業」についての指導助言をいただいた。今後も外部の学識経験者等の広い視野からの示唆をいただきながら、本校の現状に合った授業改善を進めたい。(◎)</p> <p>・(前期)公開授業週間の参観教員数のべ83名、参観授業アンケート42枚(◎)</p> <p>ウ・台湾国立台南大学附属啓聡学校(インターネットTV)、府立金剛高校、堺工科高校(全日制)、柴島高校、成美高校、花園大学、大阪市立大学、桃山学院大学、四天王寺大学、関西大学、府立中央聴覚支援学校、すながわ高等支援学校等で、10回以上の交流の機会を持つことができた。これからは生徒のさまざまな体験の機会を大切にしながら、計画的、実効的な交流となるよう活動を充実させたい。(○)</p>